

大江健三郎氏、井上ひさし氏、澤田久枝氏ら、9名の文化人が、2004年に「九条の会」を結成し、平和憲法9条を守ろうと下記のような訴えをした。「私たちは、平和を求める世界の市民と手をつなぐために、あらためて憲法九条を激動する世界に輝かせたいと考えます。そのためには、この国の主権者である国民一人ひとりが、九条を持つ日本国憲法を、自分のものとして選び直し、日々行使していくことが必要です。それは、国の未来の在り方に対する、主権者の責任です。日本と世界の平和な未来のために、日本国憲法を守るという一点で手をつなぎ、「改憲」のくわだてを阻むため、一人ひとりができる、あらゆる努力を、いまずぐ始めることを訴えます。」この訴えに呼応し、全国に「九条の会」が筈のように生まれ、現在、その数が7000を超えられている。私も「港南台9条の会」「根岸線沿線9条の会 連絡会」に関わり、反戦、平和の運動に加わって来た。「9条の会」の特徴は上下関係がなく、それぞれが独立したもので、互いに協力はしているが、自主性を尊重し、徹底した「草の根」運動である。

先日、隣の町の「栄区9条の会」の学習会の講師に招かれ、1時間くらいの話をする機会を得た。講演の概略を後藤仁敏氏がまとめられた。それを、どういうルートか分からないが、「九条の会 ニュース 439号」に、更に短縮されたものが掲載された。転載したい。

「学習会『宗教、平和、憲法、一人の牧師の視点から』神奈川県横浜市 / 栄区九条の会 11月12日、栄区九条の会は、秋吉隆雄牧師（港南台9条の会世話人）を講師に迎え、標題の学習会を開催し、21人が参加しました。（以下、講演内容を編集部で省略しました）講師のお話です。「聖書のイエス・キリストとサタンの『わが世の春を謳歌するものはサタンに魂を奪われている』との会話は、神話的表現である。独裁者は権力を掌握して人間否定に走り、権力は悪魔化する。国民が権力を監視し、権力の暴走を防ぐために国家の統治を規定する憲法がある。

統一教会は教祖である文鮮明をメシアとし、神格化している。勝共連合として保守勢力に取り入り、家父長的家庭を重視し、人工中絶と同性愛を否定し、合同結婚式をおこなって人権を無視している。安倍元総理の殺害後、自民党の政策と共通性から、政界との関係が明らかになった。本来、信仰とは喜び（愛と自由）で、平安、希望を生み出すものだ。原理主義、ロシア正教、旧統一教会は自分の宗教に埋没し、隣人の生を否定している。日本国憲法は、日本人310万人の犠牲、アジアでは2000万人以上の犠牲者への謝罪、贖罪的な意味をもつものだ。宗教とは、生の絶対的是認、人間の尊厳、平和を求めるもので、権力者が悪魔に魂を奪われていないか権力の横暴を監視するものだ。生の絶対的是認は宗教、無宗教問わず一致した理念として承服すべきだ。日本と世界で起こっている出来事のなかで、公平と正義に基づく平和を求めて、皆さんと共に歩きたい」。講演後、多くの質問がでしたが、秋吉さんは丁寧に応えられました。宗教は人を喜ばすもので、人を不幸や恐怖に突き落とすものではないとの思いがよく理解できた学習会となりました。

（栄区九条の会世話人 後藤仁敏）」

未熟な講演であるが、一人の牧師の意見として話した。「秋吉隆雄牧師」と「氏」や「さん」でなく「牧師」と書かれたことをうれしく思っている。私はいつも名前と立場をはっきり明記している。言葉に責任を持ちたいからである。最近、責任の取れない匿名の言葉が出回り、それが「フェイクニュース」や「ヘイトスピーチ」を生み出している。キリスト教の牧師の意見として受け取ってもらいたい。